

恵みには、
かかせないもの。



ロブルール[®] くん煙剤

汚れが少ない、簡単処理法。
環境にもやさしい殺菌剤の決定版。



製品情報はこちら



FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

ロブルール[®]くん煙剤の特長

- 1 特に、灰色かび病・菌核病・つる枯病に優れた予防効果を示します。
- 2 マッチやライターで点火紙に点火するだけで処理でき、大変省力的です。
- 3 ハウス内の湿度を高めないので、発病を助長せず、曇天の続く時期にも使用できます。
- 4 果菜類では、収穫前日まで使用でき、しかも収穫物の汚れもほとんどありません。

適用病害および使用方法

(2023年2月現在の登録内容)

作物名	適用病害名	使用量	使用時期*	使用回数*		適用場所	使用方法
				本剤	イプロジオン		
きゅうり	菌核病、灰色かび病	くん煙室容積 300~400m ³ (高さ2m、床面積150~200m ²) 当り100g (50g×2個)	前日	4回	5回 (種子粉衣1回、は種後4回)	温室、 ビニールハウス等 密閉できる場所	くん煙
すいか	菌核病				3回		
メロン	菌核病、つる枯病			4回			
トマト	菌核病、灰色かび病				2回		
ミニトマト				4回			
ピーマン					4回		
なす				4回			
とうがらし類	4回				5回(種子粉衣1回、は種後4回)		
いちご		灰色かび病	3回	3回			
ぶどう		開花直前~幼果期	3回	3回			

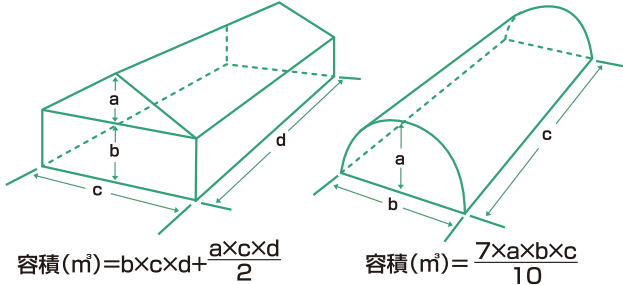
*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

くん煙剤の上手な使い方

◆くん煙薬量の決め方

くん煙剤の薬量はハウスの容積で決めます。薬量の過不足は作物に薬害がたり、効果不足になりますので、ハウスの容積は正しく測り、適正な薬量を使用して下さい。

(1)ハウスの容積算出法

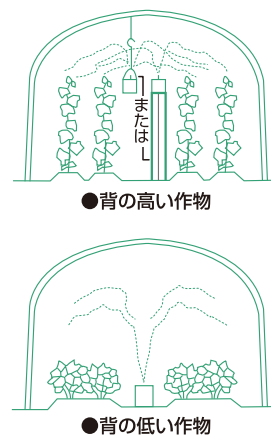


(2)くん煙薬量の算出法

使用薬量(個数) = $\frac{\text{くん煙するハウスの容積(m}^3\text{)}}{\text{使用するくん煙剤1個でくん煙できる容積(m}^3\text{)}}$

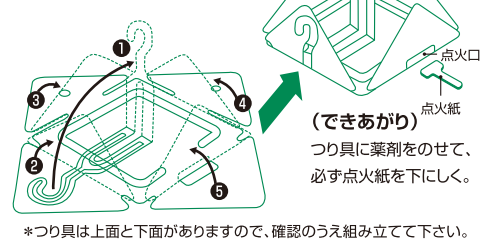
◆くん煙薬の配置(立面図)

背の高い作物は吊り下げて、背の低い作物に関しては地面に置いて使用して下さい。



◆つり具の組み立て方

- 1 アームを垂直に引き上げる。
- 2~5を折り曲げる。



*つり具は上面と下面がありますので、確認のうえ組み立てて下さい。

【点火方法】



点火紙と薬剤の間にすき間を作らないように軽く密着させて下さい。

使用上の注意事項

- 温室、ガラス室、ビニールハウス等防除しようとする室の戸や窓を閉め、室の容積によって使用量を決め、分散して薬剤を配置(1カ所100g以下)し、煙がまんべんなく行きわたるようにして下さい。
- 使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
- くん煙する場合は、添付の吊具または所定の電気式点火くん煙装置を使用してくん煙して下さい。吊具および電気式点火くん煙装置は吊り下げたかまたは不燃性の台などの上にのせて使用して下さい。なお、植物体、可燃物から離れた中央の安全な場所に設置して下さい。とくにビニール等の被覆材とは60cm以上離れた位置で使用して下さい。
- 点火は以下のとおりに行ってください。
 - 点火紙を用いる場合
 - 同封の点火紙を吊具の所定の位置に正しく設置しその上に薬剤をのせてから点火紙に点火して下さい。点火紙を薬剤の上にのせて点火すると炎が出るのでかけて下さい。発煙直後に万一炎が出た場合は吹き消して下さい。点火後発煙を確認したらくん煙室の外に出てそのまま放置して下さい。
 - 電気式点火くん煙装置を使用する場合
 - 装置は水などに濡れないように設置し、電源がオフになっていることを確認の上、薬剤を装置の所定の位置に正しく設置した後に通電して下さい。点火後発煙したら電源のオフを確認し、くん煙室の外に出てそのまま放置して下さい。発煙直後に万一炎が出た場合においても、再びくん煙室に入らずに、そのまま放置して下さい。
 - 点火後はくん煙終了時までくん煙室に入らないで下さい。
- 日中のくん煙は避け、夕刻からくん煙し、翌朝開放して下さい。
- 高温時(30℃以上)のくん煙は薬害を生じやすく、また、風の強い日は煙がかたよってしまい、均一な効果がでにくいので使用しないで下さい。
- 定植直後、幼苗、軟弱徒長苗、草勢または樹勢が弱っている場合には、薬害を生じるおそれがあるので使用は避けて下さい。
- 作物がハウスの天井に触れるくらいに大きくなっている場合、上方にたまった濃煙が触れる部分に薬害を生じるおそれがあるので使用を避けて下さい。
- ぶどうに使用する場合、葉焼け等の薬害を生じやすいので次の事項に注意して下さい。
 - 発煙は1カ所50g以下で行って下さい。
 - 天井と棚との間隔が30cm以下の場合、暖房機などの送風機を動作させ、煙の拡散を図って下さい。
 - デラウエア、巨峰、ピオーネ以外の品種では薬害を生じやすいので必ず吊具を用いてくん煙して下さい。
 - 超早期加温栽培の場合や樹が軟弱に成長した場合などはとくに薬害を生じやすいので使用は避けて下さい。
- 薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用は避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用して下さい。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 使用残りは、必ず外箱に入れて保管して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00
土日祝日および会社休日を除く

F-2029 23.02. NY